

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800269		
法人名	有限会社 ウエハラ		
事業所名	グループホーム幸ちゃんの家2号館	ユニット名	西館
所在地	宮崎県小林市野尻町三ヶ野山2157-9		
自己評価作成日	平成26年5月9日	評価結果市町村受理日	平成26年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kani=true&id=4571800269-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合った個別ケアに力を入れている。体調管理を行いながら、本人の想いに沿った支援の実現に向けて取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者と地域社会との関係が途切れないよう、積極的に地域ボランティアを受け入れたり、いきいきサロンへ出向き交流を深めている。運営推進会議では、行政や地域住民、家族代表も参加して、双方向的に活発な意見交換がなされ、サービスの質の向上に生かされている。運営者と管理者は、資格取得や研修受講に積極的であり、職員の人材育成に努め、サービスの質向上につなげている。法人代表者もホームの運営に熱心で、積極的に管理者をサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に積極的に出かけ、利用者の方や幸ちゃんの家の事を知って頂くという理念を掲げ、全職員が周知し実践に向けて取り組んでいる。	「地元との交流・笑顔が多い家族のような介護・最後まで支える」と分かりやすい表現で理念を掲げ、職員ミーティングで確認し、日々の介護活動につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	書道や音楽(ハーモニカ・尺八・太鼓)など、町のボランティア(山茶花の会)の協力を得て、ホーム内イベントに地域の方も参加して頂き交流を行っている。	地域とのつながりを重視し、利用者の散歩時には「楽笑広場」での各種イベント(三味線やハーモニカ演奏案内)等の情報提供を行い、多数の地域住民の参加を得るなど、よい関係を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内イベントやお茶会にお誘いし、認知症ケアについての理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や研修報告の他に、毎月テーマを決めて意見交換を行い、提案等が出ており、サービスの向上に努めている。	定型的な報告にとどまらず、転倒や剥離の起こる原因、防止対策などについて、活発な意見交換の場となっている。地域の人や家族も参加することにより、ホームへの理解も深まり、よき支援者となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者、地域包括支援センター職員に参加して頂き、入居者の状況・活動内容等の報告を行っており、指導・助言を頂き日々のケアに活かしている。	運営者は、市担当者とは日常的に連携を取っており、管理者も運営推進会議や電話等でホームの現状を報告し、指導・助言を受けるなどの協働関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で話し合いを行い、身体拘束をしないケアを実践している。体動が激しい方は、床にマットを敷くようにしている。	日中は玄関も施錠せず、職員の見守りと声掛けで対応している。研修等で拘束しないケアについて意識を高め、座位不安定の利用者にはクッションを当てるなど、拘束しないための代替手段を常に講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修で勉強会を行い、理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修にて、成年後見制度について勉強会を行った。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安の解消や、理解を図れるように十分な説明、話し合いを行っている。 状態の変化等により契約解除に至る場合は、本人、家族と相談し、納得を得られるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で活発な意見交換がなされている。		家族の来訪時、目にした気づきなどをその場で直接提言を受け、職員間で話し合い、解決を図っている。運営推進会議が家族の率直な意見・要望の提言できる場として機能している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週の会議で意見の交換を行い、サービス向上に役立てている。		運営者や管理者は、職員が意見や提案を気兼ねなく出せる関係を築き、出された意見を運営やサービスの向上に生かしている。座位の安定しない利用者のために、リクライニング椅子の購入や掃除ロボも取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週会議や管理者会議(月1回)に参加したり、個別に面会の機会を設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修での勉強会や週会議での医療に関するテスト等で、学ぶ機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	びっきょん会(野尻町内のGH連絡会)で2ヶ月に1回の交流を図ったり、運営推進会議にも出席する体制づくりを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ショートステイからの入所がほとんどである為、ショートに出向きご本人、又はご家族からの意見や要望を受け止めたり、把握するようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から、又は相談員を通じて話を十分に聞き、対応を行うようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや居宅介護支援センターとも連携している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、郷土料理や昔の知恵などを教えて頂いたりする関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に意見を聞いたり、ホーム内のイベントにも御家族も一緒に参加して頂けるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも近所の方や知り合いの方の面会時には、ゆっくり歓談して頂けるように努めている。また、信仰のある方は毎月のお参りや集会などにも参加できるよう支援を行っている。		友人・知人とマイクロバスでドライブしたり、家族にリフト車を貸し出し、外出の機会を促すなど、積極的に支援している。地域の人も集う「いきいきサロン」へ出掛けるなど、気力・体力の向上やなじみの人、場との関係につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の個性や相性も考えつつ、食事やイベント時の座席の位置などに配慮している。			

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動や入院、退所となった場合も面会を行ったり、運営推進会議の出席依頼などを行い、関わりをもつようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から意向を聴いたり、困難な場合は表情から本人本位に検討を行っている。		日々の暮らしの中で寄り添いながら、希望や要望を聴き取ったり、友人、知人、家族の声を記録に残し、意向の把握に努めている。意向表出困難な利用者には、いろいろな選択肢を提示したり、表情やしぐさから思いをくみ取るスキルアップ研修をするなど、ケアの質向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や生活環境を伺い、情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態や心身状態を把握しながら、個々のペースに合わせた生活が出来るようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を取り入れ、職員間で本人本位で話し合い、意見や要望、気づき等を取り入れた介護計画を作成している。		利用者や家族の意向を取り入れ、個々の職員の気づき等の情報を基に、担当者会議を行い、介護計画を作成している。また、状態変化に応じて随時の見直しも行い、全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録に日々の実践や気づき等を記録し、職員間で情報を共有しながらプランの実践や見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の付き添いや車の貸出など、その時のニーズに対し柔軟に対応している。			

宮崎県小林市野尻町 グループホーム幸ちゃんの家2号館(西館)

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方で月に1回、近所にお参りに出かけられたり、入所前のご本人のネットワークを通じてボランティアに出かけられる方もおられる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。		本人・家族が希望するかかりつけ医受診を支援している。職員が同行する場合もある。また、定期的に医師の往診や訪問看護師が来訪し、利用者の健康管理や早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の巡回する際に状態を報告している。緊急の場合は先に電話等で報告し、常に24時間連絡をとれる体制は出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、看護師と連携をとり、情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、職員で話し合いを行い、方針を共有している。また、状態の変化に応じて意思確認を行っている。		重度化や終末期の方針について、契約時に家族に説明を行い同意書を取っている。状況に応じて、他のサービスや医療機関につなげるなど、家族が安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修にて心肺蘇生法、ADLの使用法を実施した。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の災害訓練、年1回消防署の協力を得ての訓練を行っている。		消防署による災害訓練・法人による防災総合訓練や毎月ホーム独自の避難訓練は実施しているが、地域の協力体制が整備されていない。	地元消防団や自治会・近隣住民との協力体制について、更に積極的に取り組むことを期待したい。また、様々な想定で避難経路図や避難場所を明示し、具体的な避難方法や対策等について再度検討を図ることを望みたい。

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて、さりげない声かけや対応を行っている。	職員は、接遇の研修や認知症の研修を通して意識向上に努めている。親しみのある中にも丁寧な言葉掛けをしている。職員の不用意な言葉遣いやなれ合いの態度に気づいた時は、全職員に注意を促してケアに反映させている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方に合わせた声かけを行い、本人の希望に沿えるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて過ごして頂いている。また、希望に沿った支援を行うようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿ってヘアカラーや外出時の洋服を一緒に選ぶようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付け、お盆拭きを手伝って下さっている。職員も一緒に食事を行っている。	食事は、法人関連グループからの配食となっている。全職員が利用者と共に食卓を囲んでいる。介助の必要な利用者には、タイミングをみながら声を掛け合い、食材の話題で話が弾む和やかな食事光景が見られた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養師、調理師と相談しながら、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員で排泄パターンを記録し、尿意の訴えの無い方にも時間を見て声かけ・誘導を行っている。		排せつチェック表で排せつ状況を確認したり、利用者の様子から職員が五感を働かせ、声掛けやトイレ誘導を行い、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操等を行いながら、便秘の方には牛乳やヨーグルト、繊維の多い食材を提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って時間や日をずらしたり、着替えをして頂いたりしている。また、ゆっくり浸かりたい方は、順番を後に回したりして工夫を行っている。		入浴の頻度、時間などが決まっており、利用者の要望に合った入浴支援には至っていない。	利用者の希望や習慣を尊重した入浴支援が提供されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望、状態に合わせてゆっくり休息出来るように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と協力して、病状の変化の確認や服薬の支援を行いながら、全職員が薬の把握ができるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体外出や個別外出、趣味の編み物を楽しんで頂いたりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別で外出(集会やお寺参り)などに出かけられたり、本人や家族の希望で自由に出かけられるように支援している。また、リフト車の貸出も行っている。		日常的に近隣散歩や買い物、外気浴等に家族とも連絡を取りながら、外出の機会を増やすように取り組んでいる。家族にリフト車を貸し出し、お寺参りやドライブなど、普段行けないような場所への外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方はお一人だが、希望に応じて使っておられる。また、お金を所持されていない方も希望に応じて、一緒に買い物を行う体制もとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり手紙のやり取りができるようにしており、県外の御家族に電話される利用者の方がおられる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改修型で量があり、飾り付けは季節感を感じて頂けるように配慮している。		共用空間は少し手狭ではあるが、お互いに顔が見えて寂しさを感じさせないほど良い距離を保ち、派手さもなく落ち着いた空間となっている。利用者が散歩時に摘んだ花などが生けてあり、温度・採光・換気等環境整備も整い不快な音や臭いもなく、利用者が気持ちよく穏やかに過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアと廊下にソファを設置している。利用者の方にはテーブルやソファで過ごして頂いたり、相性を考えて思い思いに過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や時計、鏡台、写真を飾り、居心地よく過ごせるようにしている。		家族の協力を得てなじみの筆記用具や小物類・書籍を持ち込んだり、散歩時に摘んだバラの花が飾られた部屋など入居者の個性に合わせて居心地よく過ごせるよう工夫している。ベッド周りや足元はすっきり片付き、清潔で安全に配慮された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の各箇所には手すりがついており、安全に生活が送れるようにしている。また、居室には表札をかけ、分かるようにしている。			